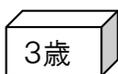


いつもよりひと月近く早く、ふくろう（コノハズク）がケヤキの木にやってきました。夜中、家のアンテナにとまっています。親近感を込めて対話しようと、口笛で鳴き真似をしてコミュニケーションをとろうと思いきや、口笛が吹けなくなっている自分がいました・・・。カーナビに頼りすぎて、道が覚えられなくなっている自分がいました。できなくなっていることが増えつつある傍らで、園生活においてどんどんできることが増えてきている子どもたちがまっことうらやましく、うれしく感じます。新しい出来事、ひと、モノとの出会いを新鮮に受け入れ、何事にも興味関心を持ってくれることを期待します。

新しいことと言えば、先月から給食が始まっていますが、みんなで一緒に同じ給食を食べることについて、特に年少さんたちはうちに帰って家庭でどんな感想を述べていたのでしょうか。給食の時に全学年、全クラスをまわって見たのですが、みんな静か～に食べていてエライなあと思うとともに、以前のようについ立てもなく、みんなでやいのやいの言いながらニコニコ食べる、あの「みんなで食べるとおいしいね！」が早く戻ってくるといいのにな。コロナ生活も明けそうなようでまだまだちょっと待て！が入ります。年長さんは遠足もあるので大自然の中で、みんなでたのしい、みんなでおいしい、を味わってきて欲しいです。

近く避難訓練も入ります。With コロナは共生していかなければならないでしょうが、火災を含め、近頃頻繁な地震や大雨など自然の驚異みたいなところにも、子どもたちが関心を持っていられるように関わっていきたいと思っています。目下のところ、ヒヨコ・ダンゴムシ・カナヘビあたりが子どもたちにとっての自然の驚異でありましょう。フクロウも入れてね。

これからのマスクの着用についてですが、園ではまだ安心して外せるといった状況には残念ながらなっておりません。しかしながら熱中症などのプラスの対策はしなくてはなりません。マスクを外すことにしたとか外さないことにしたという決めごとではなく、学年ごと、クラスごとに天候、活動内容、周囲の状況を鑑みながらマスク着脱の判断をしていきます。



- ・園での生活のしかたや流れがわかり、できることは自分でやろうとする気持ちが
見られる。
- ・保育者に親しみ、自分の要求や気持を表す。(ぼくも！わたしも！)
- ・道具や遊びを媒介にしながら仲間の存在を知る。



- ・集団生活への抵抗がほぼなくなる。
- ・クラスの大部分の子どもを知っている。(名前やマーク、どんな遊びをしている)
- ・グループ単位の中で自由に会話ができる。



- ・集団の一員としての意識を持って行動できる。
(その中で自分が何をするかがわかっている)
- ・互いの力量、よさなどが認め合える。
- ・どんなメンバーの中でも自分の要求が言える。